

# 国選定 重要文化的景観 「智頭の林業景観」

## 重要文化的景観とは

智頭町は、鳥取県の南東部、岡山県との県境に位置し、周囲が標高1000m級の山々に囲まれた山間の町です。その面積の約93%が森林となっており、豊かな森林の恵みを背景に古くから林業が栄えてきました。この智頭町内の1810.6haが平成30年2月18日に「**智頭の林業景観**」として重要文化的景観に選定されました。**文化的景観**とは、「地域における人々の生活または生業及び当該地域の風土により形成された景観地で、わが国民の生活または生業の理解のために欠くことのできないもの（文化財保護法第二条第1項目第五号）」であり、特に重要なものが重要文化的景観として国により選定されています。「**重要文化的景観**」とは、いわば「**風景の国宝**」ともいえる**貴重な文化財**なのです。令和4年3月15日時点で、全国で71件の重要文化的景観が選定されています。

## 日本初の、林業を中心とする重要文化的景観

智頭町の文化的景観は「智頭の林業景観」として選定されています。右に文化庁のホームページに載っている智頭の林業景観の説明部分を示しましたが、その特色は「**林業という中心産業を通じて、森林・山村集落・宿場町・流通往来景観など多様性に富んだ景観が形成され、中山間地域における造林の典型的な林業景観**」にあります。日本には多くの林業地がありますが、林業を中心とする文化的景観が重要文化的景観に選定されたのは智頭が初めてです。



ちづ りんぎょうけいかん  
智頭の林業景観（鳥取県八頭郡智頭町）

平成30年2月18日選定

<https://www.bunkeikyo.jp/landscape/landscape-727>

智頭における植林は、江戸時代に入り鳥取藩によって多くの山は管理され、山林の減少が原因とされる大洪水や飢饉などの被害が相次ぎ、災害対策と産業振興としてスギの植林を盛んに進められた。智頭の林業にとって最も重要であったのが、積雪地帯であるこの地に生息していた天然スギを利用して明治期において育苗技術が確立されたことであった。この技術確立により、明治期に植林された100年生を超えるスギ人口林が豊富に残っており、その後の大正時代から戦後の造林期に植えられた植林も多く、高齢、若齢人工林と高い山々には天然スギと広葉樹林が混じりあった森林景観を形成している。また、林業を生業として暮らしてきた芦津集落は茅葺民家や土蔵などが多く現存しており、集落を取り囲む森林は、林業集落ならではの景観や森林資源で財を得た石谷家住宅を中心とした宿場町も当時から現在に至る往来の面影を残す歴史的景観を形成している。さらに木材の運搬手段とした千代川、森林鉄道、旧街道も往時の生業の姿を垣間見れる景観である。このように林業という中心的産業を通じて、森林・山村集落・宿場町・流通往来景観など多様性に富んだ景観が形成され、中山間地における造林の典型的な林業景観である。

文化庁HPより



山に囲まれた  
智頭の町



智頭宿の  
街並み



「慶長スギ」  
樹齢350年を超  
える人工林